

西川産業(株)品質管理室	池田 努 様	
アサギ(株)取締役東京支店長	浅黄 利洋 様	
日本ふとん製造協同組合専務理事	只野 悟 様	
富士ベッド工業(株)取締役営業部長	小野 弘幸 様	
まくら(株)代表取締役社長	河元 智行 様	
(一財)ボーケン品質評価機構東京事業所主任	丸山 智生 様	
(一社)日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良	中村 富夫
* (オブザーバー)		
ウレタンフォーム工業会専務理事	大川 栄二 様	

JBA 第 4 期：第十回まくら部会 議事録

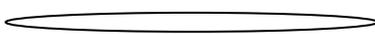
1. 開催日時 平成 30 年 3 月 22 日 (木) 13:30~16:00
2. 開催場所 (一社) 日本寝具寝装品協会 日本橋小舟町事務所内
東京都中央区日本橋小舟町 7-2 小舟町 243 ビル 7F ☎ 03-6661-0213
3. 議題 (1) ウレタン・敷部会 新性能表記ラベル (案) について
(2) まくらの表示に関するガイドライン (池田案) の検討
(3) まくら品質表示ラベルの発行管理運用面について
(4) J∞QUALITY まくら商品認証基準策定について
(5) その他

議事録 議題 (1)

大川専務：ウレタン・敷部会での性能表記ラベル (案) をホワイトボードにて説明する。

家庭用品品質表示法のウレタン表記変更もあり、構造種類、寸法、硬さ、復元率、外装生地、使用上の注意等を、下記表のように考えている。

■大川専務 (イメージ (数値含め案))

用途	(例) ベッド用マットレス、トッパー、和式用敷マット等				
重量	〇〇〇〇 g				
硬さ (n 数)	柔かめ 75 n 未	ふつう 110 n 未	やや硬め 140 n	硬め 170 n 未	超硬め 170 n 上
硬さレベル			★		
へたりにくさ	39%以上	39~32%	32~22%	22%未満	
へたりレベル				★	
保温性	1.0 未満	1.0~1.5 未	1.5~2.0 未	2.0 以上 (厚さ÷熱伝導率)	
保温性レベル			★		
体圧分布性	(住友理工製/ニッタ式測定器データ) 				

大川専務：硬さとへたりにくさは、積層タイプは上層と下層に分けて表記を考えている。

奥谷専務：体圧分散は、主流であるニッタ式と住友理工式の 2 タイプ測定器使用し、ニッタ式カラーゾーン 2 段階落ちで調整し、見え方の同調を図っている。

東洋クオリティワン製寝返り試験機測定も指数化できないので表記しない。

奥谷専務：JBA 会員から、ウレタンマット圧縮梱包後のへたリ復元率の標準化の要望がある。

大川専務：圧縮梱包後の製品硬さを表記することがよいと思う。

池田部会長：低反発か高反発かの数値区分けがあるのか。

大川専務：反発弾性 JIS K6401 をもとにウレタン工業会として業界指数を示している。

河元委員：通気性表記はどうか。

大川専務：側生地影響が非常に大きいので表記は考えていない。

小野委員：黄変についての表記はどう考えているのか。

大川専務：黄変防止マットはあるが高価すぎて実用性がない。無膜マットは洗い易いが劣化要因は紫外線が一番である。取扱い注意事項は検討中である。

池田部会長：まくらも硬さ表記が今後検討なので、ウレタン・敷測定法を参考にしたい。

議題 (2)

池田部会長：(資料説明) まくらの定義については、長時間 の文言削除して、「睡眠時に使用し、頭部を支えるものを主とするが、体 (又は体の一部) を支えるものも含まれる。」となった。

浅黄委員：もともとガイドラインがないものにガイドラインを作っていくのだから、認知度のある抱きまくら等は用途まくらとしてあるべきものと思う。

河元委員：用途呼称で、腕用まくらは存在しないと思う。

池田部会長：本まくらガイドラインは頭部用まくらを主体とし、腕用まくら、携帯まくら、昼寝用まくら等は用途呼称から除外し、準拠使用するものとする。

第2章 2,1 2行目に レベル及びシール を付記

第3章 3,2 (3) 1行目 三種類 と訂正。3, 3 2行目 頭部用 を付記する。

只野委員：第4章 資料2 ① (その他の羽毛)は (その他のもの)に訂正がよい。

大川専務：第1章[目的]1行目 ウレタンマットレス類は繊維製品ではない。2、3、4、5行目には省略文言もあると思う。第3章 3,8 高さ調節用 ウレタンフォームシート 名称はウレタン業界にないので ウレタンフォーム ではどうか。発泡スチロール名称はポリスチレンを発泡後の名称である。発泡前はスチレンビーズがよいのではないか。検討をお願いします。

池田部会長：薬機法では寝具類は雑品項目であり、薬機法下での表記は不可である。

議題 (3)

奥谷専務：まくら、ウレタン・敷、ふとんの新表示表記モデルが出来上がりコンセンサスを
得て寝具編テキストはじめ業界ツールに掲載して衆知徹底を図る。

運用管理面はGFマークと同様にラベル発行し認証していきたい。

議題 (4)

中村 JBA:J∞QUALITY まくら商品認証ノミネート案については、2018年秋展示会発表で2019
年春に市場展開をタオル同様に考え、皆様の意見を3月末まで収集しています。

羽毛(ダウン50%以上)がノミネート基準でなく、フェザー高混率素材でも十分
匠の技、こだわり性のある原料ある等の修正意見が寄せられている。

議題 (5)

池田部会長：本日の要検討改正事項や、品質表示ラベルの運用管理策、業界告知等を検討
する為、4月9日午前10時から部会開催する。

まくら業界一体化の為に引き続き、部会活動にご協力をお願いします。

以上